



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番
93.11.1 No. 3884

小選挙区制粉碎、12月ダイ改阻止闘争へ!

10/28 第17回 定期大会

決戦★千葉転部

十月二十八日、千葉県観光物産センターで、千葉運転支部第十七回定期大会が開催された。冒頭挨拶にたった五十嵐支部長は、「政治腐敗に対する怒りのなかで、自民党政権が倒れたが、細川連立内閣は、自民党でもできなかった小選挙区制や憲法改悪に向けてつき進むなど、自民党以上に反動的な政権であると言わなければならない。社会党や連合もこの動きに手をかしている。JRでも、十二月のダイ改に向けて大合理化攻撃が行われ、十二月には清算事業団の中労委命令が出されると言われるなど大きな動きが始まっている。特に十二月のダイ改は、『時短』にも係わらず要員が今以上に削減されるなど、大変な労働強化になる。結局問われていることは、労働者がいかに闘うかということだ。活発な議論で、一年間の闘う方針を決定してほしい。」と提起。議事の提案の後、活発な質疑討論が行われた。

【出された主な質疑】

- ◆ 十二月のダイ改では、木更津4往復の仕業ができるなど今まで以上にひどい勤務となっているようだが、提案されている内容について、全体としてどうなっているのか。
- ◆ 習志野運転区が担当していた総武緩行の試運転行路が千葉転部担当となると聞いているが、どうなっているのか。
- ◆ 危険踏切の組合徐行について、今後の考え方を聞きたい



◆ 強制配転や運転士登用問題で地労委で勝利命令もでていいるが、あまりにもながく配転され続けているため、もう原職にもどる気持ちがなくなっている者もいる。当局はどう考えているのか。

◆ 動労千葉はこの間社会党を推薦してきたが、今のような社会党をこれからも推薦するのか。JR総連や鉄産労まで推薦しているような社会党を何故推薦しなければならぬのか。

大会は、以上の質疑のうえに、満場一致で九三年度方針を可決し、椿新支部長を先頭とする新執行体制を確立して、大成功のうちに終了した。

『九三年度新役員』

支部長	椿 裕明
副支部長	平川 長二
書記長	山口 世修
執行委員	大野 茂
	小倉 培次
	多田 勝美
	藤岡 秀夫
	古川 政史
	大木 孝
	影山 和広
	宮重 芳正
	仁藤 久秋
	花崎 栄一
	中村 栄一
	五十嵐和夫
特 執	
青年部長	山口 正芳
会計監査	市原 隆夫
	大木 繁樹

11/3 運動結団会 9時 小学校天弁

「細川政権打倒！」

大量首切への道「規制緩和」の本質

細川政権は、景気対策と称して「規制緩和」を打ち出している。その手法は、「車検」を現行一年を二年にするなどをエサにして、実は資本に対する規制の緩和を図るといふものである。そのことは、九月一六日発表された「緊急経済対策」を見れば歴然としている。そこでは「空港開発の促進など九十四項目の規制緩和、総額六兆円の景気テコ入れ策を実施する」としている。仮にこれが実施されれば、宅地開発の促進などによる乱開発はやり放題となり、自然破壊は歯止めを失ってしまう。まさに「第二の列島改造」計画である。加えて資本による労働者への搾取・収奪は何の規制もつけず極限にまで進められる。まさしく大量首切攻撃に拍車をかけることは明瞭である。さらに細川政権は、年金支給年令の六〇才から六五才への引き上げ、消費税率のアップ(一〇%)など、歴代自民党の悪政治をはるかに上回る反動的な政策を遂行しようとしているのである。社会党を引き込むことで一定の「幻想」をつくりだし、それが続いていくうちに、ドシドシやりたい放題のことをやってしまおうとする細川政権を徹底断罪することは決定的に重要な課題・闘いである。